



# 朝日の社会福祉だより

2018年  
夏

## 高校生進学応援金 対象を広げ実施

朝日新聞厚生文化事業団では、児童養護施設や里親家庭などの社会的養護で暮らし、将来に向けて大学や専門学校に進学する高校生に対して「児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」を贈っています。入学金(実費)に加え学生応援金として年間60万円(最大360万円)を卒業するまで贈ります。11回目となる18年度は対象を自立援助ホームで暮らす方々にも広げて実施します。

### 全国から集い交流

3月23、24日には「進学応援生のつどい」を都内で開きました。

17年度の内定者45人のうち、辞退者等14人を除く31人が全国各地から参加しました。また16年度の応援生13人も参加してくれました。

23日は東京都文京区の「東京大学伊藤国際学術研究センター」で、高校生まで養護施設で暮らした経験のある元茨城県高萩市長の草間吉夫さんを招きお話をうかがいました。草間さんは参加者からの「学費はどこから得ていまし  
たか」「社会に出て困ったことはありますか」な

どの質問に、自らの体験をもとにした具体的なアドバイスで答え、生徒たちは真剣に聴き入っていました。その後、「大人になるってどんなこと?」というテーマでグループワークを行い、新生活への期待や不安なども交えながら参加者同士で語り合いました。

24日はバスで千葉県浦安市の東京ディズニーランドに移動してパーク内で過ごし、さらに交流を深めることができました。



### 在学中もサポート

当事業団の進学応援金は、入学から卒業するまで対象者に応援金を贈ることから、在学中も連絡を皆さんと取り合っていきます。そして、いつでも応援生のサポートができるような体制づくりを進めていくことはもちろん、全国各地で応援生が気軽に集い、悩みを共有し合ったりできる場所をつくっていきたいと考えています。

### 進学応援生からのメッセージ

**私** に学ぶ機会を与えてくださったことを、心から感謝しています。皆さんがあ  
私を救ってくれたように、次は私が誰かを救  
えるよう、日々努力したいと思います。

**い** ただいた奨学金は自分たちが自ら選  
んだ進路へ進むために、大切に使わ  
せていただきます。必ず国家資格を取得し、  
社会に貢献することの出来る立派な大人に  
なろうと思っています。

**僕** が施設に入った時からいろんなことが  
変わりました。塾に行けるようになった、スマ  
ホがもてるようになった、そして進学  
ができるようになった。これは「当たり前」で  
はありません。寄付をしてくださった方々の  
おかげです。本当にありがとうございます。

**た** くさんの人達からの寄付や、ご支援に  
よって、進学することができました。  
夢を叶え、実現することに一歩進み、可能性  
を広げることができました。ご支援くださっ  
た方々の気持ちを大切にして、感謝を忘れ  
ず、これから頑張っていきたいと思います。



## 高齢者の福祉

## 認知症の人に優しい地域づくりを応援

自分や家族が認知症になっても、住み慣れた地域で周囲に見守られ心安らかに暮らすことができる。そんな地域をめざす試みを紹介するフォーラムを2月に東京と大阪で開きました。18年度は朝日新聞創刊140周年記念事業「認知症フレンドリープロジェクト」とも連動し、さまざまな発信に取り組んでいきます。

フォーラム  
認知症カフェからの出発(東京)

「認知症カフェ」が地域に根付き、行政や医療など他の活動と連携してより効果的な活動を進めていくためのヒントを、全国でユニークな実践をしている団体の報告や助成団体によるポスター発表、医師の講演、参加者同士の話し合いなどを通して探りました。



## 障害のある人の福祉

## 自閉症カンファレンスNIPPON

自閉症の人を支援するための最新の情報を、外国から講師を招いた講演、国内の実践報告を聞く分科会、初心者向け講座などで知ることができる会議です。18年度は8月25・26日に東京・早稲田大学で開催します。

## 全国高校生の手話によるスピーチコンテスト

全国から選ばれた10人が、ろう者とのかわりから感じたことや将来にかける思いなどを、手話と音声でスピーチし学びの成果を競います。18年度は8月25日に東京・有楽町朝日ホールで開きます。



## 高次脳機能障害講演会

脳卒中や交通事故などにより脳に損傷を負い、後遺障害が残った人の暮らしや働き方を考える講演会です。18年度のテーマは「医療と連携、リハビリから就労へ」。9月30日(東京)と11月4日(大阪)の2回開きます。

## 車いすバスケットボール選手権大会



車いすで行うバスケットボールや、障害に応じて2種類のゴールを使う車いすツインバスケットボールの九州大会を共催しています。

## 子どもの福祉

朝日こどもの未来  
ブロック講座

子ども食堂などで貧困問題に取り組んでいる人たちが、全国の仲間とつながり、より良い支援を続けられるように先進事例を学ぶ講習会です。18年度は地域事情に合わせた活動を探るため、全国2カ所で実施する予定です。

ひとり親家庭の  
子育ちセミナー

「子どもへの接し方や育て方が分からない」「相談できる人がいない」など、悩みを抱えるひとり親が集い、専門家の講演や経験者の体験談を聞いたり、互いに話し合ったりしながら親としてのあり方を考えるセミナーを3月に大阪で開きました。

## 朝日夏季保育大学

保育士や幼稚園教諭のスキルアップを目指し、長野県諏訪市で毎年開いています。65回目になる18年度は「すべての子どもに安心できる環境を」をキーワードに7月20・21日に開きます。



## 各種ガイドブックやDVD の販売

高次脳機能障害や認知症、人生最期の暮らしに関する書籍や、自閉症の人たちを理解し、適切に支援する方法を紹介したDVDなどを制作、販売しています。

## 認知症フレンドリーコミュニティーフォーラム(大阪)

「認知症フレンドリー首都」をめざしている英国ロンドン市の責任者らを招き、取り組みについて話してもらいました。また認知症の当事者の意見を取り入れたまちづくりで注目されている東京都町田市の試みを聞きました。フォーラムには先進地として知られる英国プリマス市の関係者らもテレビ中継を通して参加。活発な質疑応答が行われました。

## ゆうゆうビジット

一流の音楽家や俳優、力士たちが全国の高齢者施設を訪問。ミニコンサートや交流を通して、外出の機会が少ない高齢者たちに楽しい時間をお届けしています。18年度下期の訪問施設を、8~9月に募集します。

高齢者の運転と体力維持  
を考える教室

高齢者がいつまでも安心・安全な暮らしを続けるため、「運転」と「体力維持」について専門家が解説・指導する教室です。7月21日に大阪で実施します。

## 被災地支援

## 南三陸復興支援

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県南三陸町に「復興助成金」として支援を行っています。4月に開所した高齢者支援施設の建設にあたって、地域住民が集まるイベントなどに使えるウッドデッキの整備費を支援しました。今後も地域コミュニティづくりを進めるための支援を続けていきます。



## 熊本地震被災地支援

熊本地震での発生直後から障害者支援のために結成され、活動を続けている「被災地障害者センターくまもと」に資材の保管庫とテントを贈りました。また、被災地で現在も支援活動を続けている団体の活動を支えるため、総額約500万円の公募助成を行いました。

## 朝日のあたる家

東日本大震災の救援事業に寄せられた寄付金により、岩手県陸前高田市に建てられたコミュニティハウスです。2月に5周年を迎えました。認知症カフェや食事会、体操の集いなど地域の方々が自由に参加できる様々なプログラムを開催しています。





## チャリティー事業

朝日新聞厚生文化事業団のチャリティー事業は、関東大震災後に実施された歳末の「同情週間」以来の伝統です。秋から冬にかけて催しが続きます。

### 各派合同三曲演奏会

11月23日／大阪

西日本の箏、三絃、尺八の世界で活躍する邦楽の各派社中が出演する演奏会です。優美で華やかな和の音色が次々と奏でられます。



### メサイア演奏会

12月20日／東京

ヘンデル作曲の「メサイア」を東京藝術大学音楽学部声楽科学生の合唱、藝大フィルハーモニア管弦楽団の演奏で上演しています。



### 親子で楽しむクリスマスコンサート

12月23日／東京

中川ひろたかさんによる、あそびうたや踊りで子どもも大人も楽しめる愉快なステージです。



### 洋舞合同祭

12月25-27日／大阪

モダンダンスやクラシックバレエに打ち込む児童や大人のチームが、日頃の成果を披露し、華やかな舞台を繰り広げます。



### 朝日チャリティー美術展

名古屋・大阪・東京

文化勲章受章者や人間国宝を含む全国の芸術家や著名人から寄贈された作品を販売します。



## 創設90周年を迎えました

朝日新聞厚生文化事業団は、1923(大正12)年の関東大震災における朝日新聞社による被災者救援活動にルーツをもつ団体です。1928(昭和3)年に「朝日新聞社会事業団」として創設されました。それ以来90年にわたって災害救援、公衆衛生、救貧事業、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉など幅広い分野で事業を行ってきました。

8月18-30日に、朝日新聞東京本社本館2階コンコースギャラリーで90年の歴史を紹介する展示を行います。



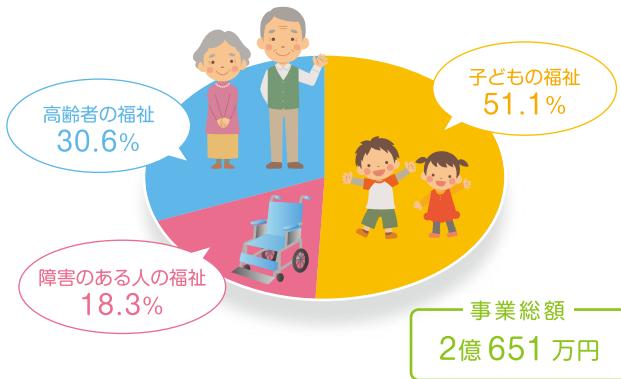
### 〈歴史のひとこま〉白米引換券

昭和初頭、「歳末同情週間」で集まった義金をもとに、飢餓線上にある家庭へ白米を配っていました。大阪では現品支給にかえ1930(昭和5)年度の同情週間から「白米引換券」を渡すようになりました。



皆様からのご寄付は以下のような事業に使われます。

(2018年度事業予算、東日本大震災救援事業を含みます)



### お問い合わせ先

本 部  
(東 京)  
TEL 03(5540)7446 FAX 03(5565)1643

大 阪  
事務所  
TEL 06(6201)8008 FAX 06(6231)3004

西 部  
事務所  
TEL 092(477)6930 FAX 092(477)6931

名古屋  
事務所  
TEL 052(221)0307 FAX 052(221)5453



朝日新聞厚生文化事業団

ホームページ <http://www.asahi-welfare.or.jp/>

E-mail [mail@asahi-welfare.or.jp](mailto:mail@asahi-welfare.or.jp)

facebook <https://www.facebook.com/asahiwelfare/>

